

HIP Exterior 塗装要領書

- 商品名 HIP Exterior (ヒップ エクステリア)
水性アクリルエマルションペイント
- 用途 屋外壁用(コンクリート・モルタル・窯業サイディング・金属サイディング・ケイカル板・木部・鉄部・塩ビ鋼板・ガルバリウム鋼板)
※難付着性サイディングボードには塗装不可
- 艶 エッグシェル(2分艶)
- 荷姿 3.8L(各色) / 19L(淡彩色 ※Hip カラーチャートの W 末尾の色番号のみ)

工程	塗料名	塗装方法	塗り回数	塗装間隔(時間以上)	塗面積と塗付量(kg/m ²)	希釈率(%)
素地調整	被塗面に付着している汚れ・油成分・ゴミ・粉などの付着物を除去し乾燥した清浄な面にする。 穴埋めが必要な場合にはパテ・フィラーなどを用いて行う。 素地の材質・状態によっては、シーラー・プライマーを使用してください。					
下塗り	HIP Exterior	刷毛塗り ローラー塗り エアレススプレー	1	指触乾燥約 30 分 塗装間隔 1~4 時間以上	約 8 m ² /1 L 当り (0.16~0.17)	0 % (水道水)
上塗り	HIP Exterior	刷毛塗り ローラー塗り エアレススプレー	1	指触乾燥約 30 分 塗装間隔 1~4 時間以上	約 8 m ² /1 L 当り (0.16~0.17)	0 % (水道水)

(注) 被塗膜の形状、素地の状態、施工方法、施工条件によりそれぞれ多少幅を生じることがあります。
エアレスを使用する場合は 5%~10%希釈してください。

【塗装要領】

下地処理

カビや藻が発生している場合は市販のカビ取り剤を使用し除去してください。ボードのジョイント部はひび割れ防止のため、パテ処理し、サンドペーパーで研磨して平滑にしてください。ゴミ・ほこり・砂・油成分・樹液など塗装前に水洗いし、乾燥した清浄な面にしてください。鉄部に塗る場合は、よくサビを落とし必ず下塗りにサビ止めペイントを塗ってください。傷・穴は下塗り塗装前に穴埋めし正常な状態にしてください。新木の場合の乾燥程度は含水率 15%以下としてください。ケイカル板・塩ビ鋼板・ガルバリウム鋼板の場合、下塗りに各素材に適応したプライマーを塗ってください。はがれかけのペイントや付着物はサンドペーパーや皮スキ・ワイヤーブラシなどを使い取り除きます。ツヤのある表面は必要に応じてサンドペーパーで表面をザラザラにしておいてください。施工面は塗装する前に完全に乾燥させてください。(含水率 10%以下、pH 値 12 以下)使用前に良く攪拌してください。内外壁の新設仕様の場合は、必ず下塗りにシーラーを塗装してください。素材にセメント成分などが使われている場合は、エフロレッセンスが発生する恐れがありますので適切なシーラーをご使用ください。新設の押出成形セメント板・GRC 板・フレキシブルボードなどは、浸透型シーラーをお使いください。

施工方法

マスキングテープやマスキングを使い、塗りたくない所を覆います。マスキングテープは塗装が終了しない場合でもその日のうちに一旦はがしてください。翌日になると塗料が固まってしまうマスキングテープを綺麗にはがすことが難しくなります。希釈せずよく攪拌して塗装してください。刷毛塗り仕上げとローラー仕上げが混在する場合、使用量・表面肌が異なるため若干の色相差がでますので、刷毛塗りの部分は少なくして塗装して

ください。ローラー塗りの際、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目により色相が異なって見えることがあります。塗装方法により色相が多少変化する場合がありますので、ローラー塗りは出来る限り入り隅まで入れてください。1回目を下塗りプライマーとして塗布し、2回目で仕上げてください。(色によりそれ以上塗り重ねる場合もあります)

施工上の注意

施工前には SDS を熟読し理解した上で、必ず試験施工をし下地との密着を確認してください。雨や雪・強風・湿度が高い日は避け、天気の良い日に塗ってください。気温、被塗物の温度が 5℃以下・32℃以上・湿度 85% 以上または換気が十分でなく結露が考えられる場合は塗装をさけてください。マスキングテープは塗料が完全に乾く前にはがしてください。使い終わった道具は新聞紙などで塗料をよく拭き、乾く前に水でよく洗ってください。密着の悪い素材にはシーラー処理をしてください。重ね塗りをする際は、下地が完全に乾燥していることを確認してから施工してください。下地が動いた場合は、クラックが発生する場合があります。塗装後 24 時間以内など乾燥不十分な状態で降雨結露がある場合や、低温・高湿度・通風のない場合には、膨れ・はく離・割れ・白化・シミが発生する恐れがありますので、塗装を避けてください。やむを得ず塗装する場合は、強制換気などで湿気分を飛ばすようにしてください。シミが発生した場合は乾燥後水拭きして除去してください。塗装直後から頻繁に人が触れるようなドアの一部や手すりなどでは、皮脂の影響により塗膜表面の軟化が起こる恐れがあります。必要に応じて保護プレートなどで接触防止を行なってください。乾燥条件によっては塗膜表面に粘着を感じることはありますが、時間とともになくなります。風化面・吸い込みの著しい下地では、適切なシーラーをご使用ください。シーリングの上に、劣化・ひび割れなどの損傷がある場合は打ち直しをしてください。蓄熱されやすい建材(軽量モルタル・ALC・窯業サイディング・発泡ウレタン使用建材など)を使用した「高断熱型外壁」で、旧塗膜が弾性リシン・弾性スタッコ・アクリル塗料などの場合、塗り替え段階で既に旧塗膜が膨れていることがあります。そのまま塗装すると膨れがさらに拡大する可能性がありますので、完全に除去してください。また「高断熱型外壁」に塗装する場合は、蓄熱・水分・下地の状態・塗装環境など複数の条件が重なることで、建材の変形・塗膜の膨れ・はく離が生じることがあります。ALC 面・多孔質下地・コンクリートブロック面など外部の素地において巣穴や段差などがある場合は、樹脂入りセメント系下地調整剤などで処理してください。(合成樹脂エマルジョンパテの使用は避けてください)シーリング面への塗装は、塗膜の汚染・はく離・収縮割れなどの不具合を起こすことがありますので行なわないでください。やむを得ず行なう場合は、シーリング材が完全に硬化した後に行なうものとし、塗り重ねの適合性を確認し、必要な処置を行なってください。笠木・天端などの長時間水が滞留する箇所では塗膜の白化・膨れなどが発生する場合がありますので、養生シートの設置方法などに配慮し、換気を促してください。濃彩色や冴えた原色の場合、塗膜を強くこすると色落ちすることがあります。衣類など接触する可能性のある部位には使用しないでください。大型壁面塗装では補修部分が目立つことがあります。補修の際は塗料及び補修方法などの条件を同一にしてください。ローラー・刷毛などは他の塗料での塗装に使用するとハジキなどが発生する恐れがありますので、十分に洗浄するか、専用でご使用ください。可塑剤が多く含まれる塩ビ鋼板・塩ビラミネート・プラスチック・ゴムパッキン・合成皮革・塩ビクロスなどへの直接塗装は避けてください。また、これらの部材に塗膜が直接接触することがないようにご注意ください。繊維壁・耐火被覆用ケイカル板、ロックウールなどの非常に脆弱な素材には塗装できません。カウンター・陳列棚・ベンチ・床面などが常時置かれるような場所には跡がつく恐れがありますので塗装しないでください。記載されている内容は一般的な環境下での施工を想定して記載されています。床もしくは水平面の施工は避けてください。

株式会社カラーワークス

〒242-0001 神奈川県大和市つきみ野 1-1-40

TEL : 046-278-3029 FAX : 046-272-7200

www.COLORWORKS.CO.JP

安全衛生上の注意事項

1. 使用前に取り扱い説明書を入手してください。
 2. すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないでください。
 3. 粉塵/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないでください。
 4. この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないでください。
 5. 取り扱い後は手及び身体をよく洗ってください。
 6. 保護手袋・保護衣・保護眼鏡・保護面を着用してください。
 7. 飲んだり・目に入れたり・皮膚に付着しないようご注意ください。
- 【緊急時、及び応急処置】
- a. 飲んでしまった場合 ただちに水を与え医師の診断 / 手当を受けてください。
 - b. 目に入った場合 大量の流水で洗い流し医師の診断 / 手当を受けてください。
 - c. 皮膚に付着した場合 大量の石鹼水で洗い流し、痛みや異常がある時は医師の診断 / 手当を受けてください。
8. ばく露またはばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けてください。
 9. 施錠して子供の手の届かないところに保管してください。
 10. 内容物/容器を国際・国・都道府県、又は市町村の規則に従って産業廃棄物として廃棄してください。
 11. 本来の用途以外には絶対使用しないでください。
 12. 衣類に付着した場合は、速やかにすべての汚染された衣類を脱ぐか付着物を取り除いてください。再使用する場合には洗濯してから着用してください。
 13. 使用中・保管中は直射日光・水濡れ・凍結は厳禁です。輸送中・保管中は 40℃以上、5℃以下にせず、きちんとフタをして、換気の良い場所で保管してください。
 14. 塗装中・乾燥中は適切な換気が行える場所でご使用ください。
 15. 取扱い後は、手洗い及びうがいを十分に行ってください。
 16. 環境への放出を避けてください。容器からこぼれた時には、砂などを散布した後、処理してください。